

# 梅小路だより

<http://www.edu.city.kyoto.jp/hp/umekouji-s/>



TEL. 371-7303 FAX 371-6019

令和4年度  
第2回学校評価特集号  
京都市立梅小路小学校  
校長 谷村 茂生

## 令和4年度 第2回学校評価アンケート 特集号

### 学校教育目標

### 自ら学び考え、行動する、「生きる力」を身に付けた子どもの育成

#### <めざす子ども像>

うまれた課題をあきらめずに探究する子ども  
めあてにむかって多様な人と協働する子ども  
ことばをたくさん使って、対話でつながる子ども

うんどうやスポーツを楽しむ子ども  
じぶんも友だちも大切にする子ども

保護者の皆様にご協力をいただいているアンケート調査は、学校評価の大切な指標として、そのご意見を本校教育に生かす取組を進めてまいりました。今年度も、9月と1月の2回にわたってご協力をいただきました。今回は、今年度2回目のアンケート結果をもとに、発展させるべきところ、改善すべきところを明らかにし、来年度の教育活動に生かしていきたいと思います。

### 児童アンケート結果より 「がんばれること」や 昨年度との比較

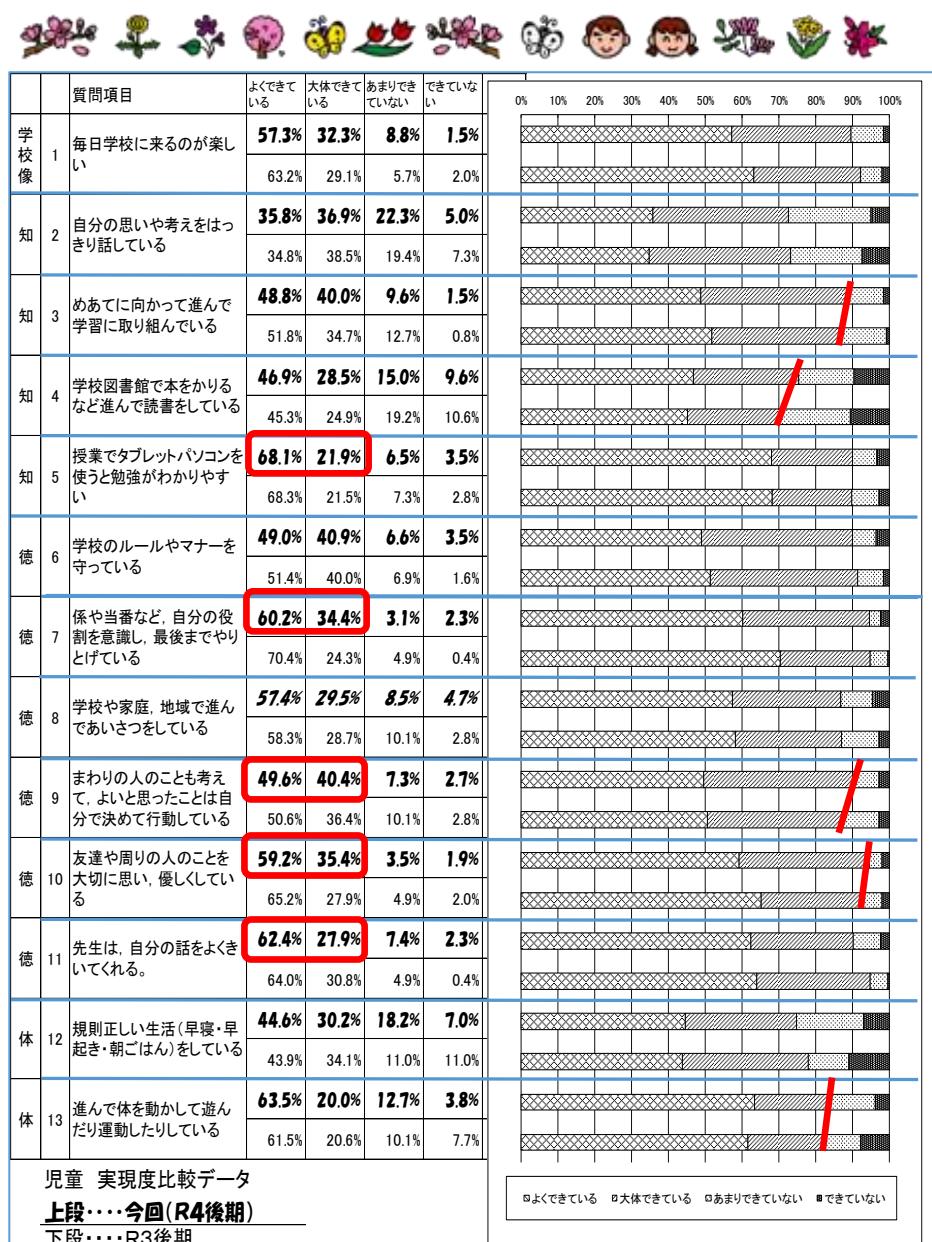
児童アンケートに13ある項目について、昨年度の同時期と比較してどのような傾向があるのか、見てていきます。

これまで、年度の1回目の調査に比べ、2回目の調査結果が全体的に低くなる傾向が見られました。年度も後半の方が自分をふり返る材料がたくさんあり、また、自分を見つめ直す見方が厳しくなる傾向があります。

では、昨年度の同じ時期と比較してみるとどうでしょうか。全体的な傾向としては、同じような数値結果となりました。

まだまだ、いろいろな活動が制限されていた昨年度と比べ、工夫しながら学校行事など、可能な限り実施してきた今年度ですが、そのあたりが普段の学校生活をふり返った時にも表れているようです。

若干、増加したという結果になっている項目は、「学習に向かう姿勢」「読書活動」「自主的な行動」「友達への接し方」「運動」といった項



目です。活動する機会が増えていたからこそがんばる姿も増えていることが推察されます。つまり、準備や条件がそろえば、がんばれる気持ちをもてたり、実際にがんばれたりする子どもたちが多いということです。

コロナウイルス感染症が、特定感染症第5類への引き下げを予定されている来年度。今年度よりもさらに取組を再開したり、充実した内容にすることができたりしそうです。これまで以上に「がんばる姿」がたくさん見られ、「できたよ」と実感している様子が増えることを楽しみにしたいと思います。



### 子どもたちの実感をともなう確かな学力の定着をめざしたい「知育」の取組

主に、学習面での様子を尋ねる項目では、全体としては、昨年度同様の傾向となっていますが、なかでも「めあてに向かって進んで学習に取り組んでいる」「学校図書館で本を借りるなど進んで読書をしている」の項目で、「できている」「大体できている」の肯定的な答えが増加していました。また、「授業でタブレットパソコンを使うと勉強がわかりやすい」の項目では、90%以上の実現度を示しました。

本校が進めている「主体的な学び」の中では、1時間1時間のめあてをしっかりともって学習に臨むことが大切になります。一つの学習単元の中で、どんな風に学習を進めていくのか



を子どもたちと教師が話し合いながら計画をしていきます。そして、1時間ごとに目指す目標（めあて）をつくります。学習計画に基づいて、1時間ごとの学習を進めていきます。1時間の終わりには、ふり返りをし、めあてに対して、自分はどんなことを学んだのかを確かめます。次の時間のめあてを確かめ次の時間の学習をイメージします。1時間ごとのめあてを達成した時、一つの学習単元の目標を達成した時、子どもたちは「できた！」と実感することができます。これら一連の活動をくり返すことで、子どもたちが主体的に学習を進めていこうとする意欲と学び方を身につけていきます。

学校図書館の活用については、現在、コロナウイルスの感染防止対策のため、使用できる時間帯や学年を制限しています。

そんな中で、読書をする姿が増えることはうれしいことです。読書活動は、本校が進めている言語能力の育成につながるとともに、豊かな心を育てるにもつながっています。他の項目にくらべると、まだ実現度が低いですが、学校司書によるブックトーク、年に2回の読書月間の取組、図書委員会の活動、「おうち de 読書」の取組など、今後も子どもたちの読書の意欲を高める取組を進め、読書がごくごく日常的なものとなるようにしたいです。何よりも、早く学校図書館が制限なく使えるようになればと思います。



本格的な活用が始まって、2年が経とうとしているタブレット端末の活用ですが、「勉強がわかりやすい」と感じている子どもたちが9割もいることは、特徴的です。子どもたちのタブレット端末を操作する技能は目を見張るスピードで高まっています。令和の文房具として、身近な存在となったタブレット端末ですが、一方で、従来から言われている視力低下などの健康面の心配もあります。また、子どもたちは操作すること自体に楽しさをおぼえているのではないかという懸念もあります。

「タブレット端末を使ったからこそできた」「タブレット端末を使うことでわかりやすくなった」そんな風に、子どもたちの実感をともなう様、引き続き効果的な活用の仕方について考えていきたいと思います。そして、

タブレット端末を使うことを苦手とする子どもたちがいることも確かです。今後、格差となって広がってしまうことがないよう、一人一人の児童にとって効果的な活用となる手立てを考えていきたいと思います。そのことが、個別最適な学びにつながっていきます。



### 高い実現度が見られた豊かな心を育む「德育」の取組



豊かな心を育む「德育」の取組では、実現度が9割を超える項目がたくさんありました。「係や当番など、自分の役割を意識し、最後までやりとげている」「まわりの人のことも考えて、よいと思ったことは自分で決めて行動している」「友達や周りの人のことを大切に思い、優しくしている」「先生は、自分の話をよくきいてくれる」実際に、6項目中4項目で実現度が9割を超えるました。



制約が多いコロナ禍でも、子どもたち同士が関わり合いながら学校生活を送っていることの現れです。「友達のことを大切に思い、優しくしている」これも梅小路小学校が大切にしていることです。一人一人の子どもたちがお互いのことを認め合い受け入れる学習集団をつくるということを常々目標にしています。多様な人と活動し、多様な考えを学ぶ。協働的な学びの実現を目指しています。これは、一朝一夕で育つものではありません。一年かけてじっくりと育てる、そして、6年間かけて育てていくことで身につけさせていきたいと思います。来年度ももちろん、お互いを認め合える集団を目指して、

各学級、学年、学校全体が育つようにあらゆる教育活動を通して、心の教育を進めていきます。



### コロナ禍でもできることが増えてきた証。健やかな体を育む「体育」の取組



「進んで体を動かして遊んだり運動したりしている」の項目が少しではありますが、実現度が上昇しました。コロナ禍で制限の多かった昨年度に比べ、今年度は少しずつできることが増えてきました。休み時間の運動場使用を全学年が同時にできるように戻したり、体育科の学習内容も種目の制限がなくなったりしました。そのため、委員会活動で体を使ったイベントを企画することも増えました。また、教育委員会が進める体力向上の取組「スポーツチャレンジ」では、6年生が大なわとびに挑戦し、1位の記録を出しました。これらの変化が、子どもたちの実感として、結果に表れたのではと思います。



規則正しい生活は、昨年度に比べ「できた」と答えた実現度自体は減少しましたが、「できていない」と答えた数は減りました。少しずつ日常がもどってきて、規則正しい生活をしなければならない中、コロナ禍で定着した巣ごもり生活でテレビを見る習慣やゲームをする習慣が残ってしまっているのかもしれません。

今後は、ウィズコロナの生活が始まります。コロナウイルスに限らず、様々な感染症に対して抵抗力のある健康な体づくりを進めていくことが大切です。





いろいろな活動が少しづつ元に戻りつつある今年度でしたが、「毎日学校に来るのが楽しい」と答える児童はわずかに減少しました。それでも、89.6%の実現度で、ほぼ9割の子どもたちは楽しいという実感があることが分かります。さらに、活動の制限が少なくなることが予想される来年度、「たのしさ広がる梅小路小学校」になるよう、「知・徳・体」それぞれの取組を充実させるとともに、バランスの取れた「生きる力」を育んできたいと思います。

## 児童・保護者・教職員の三者を比較すると…



	児童	保護者	教職員
1位	☆係や当番など、自分の役割を意識し、最後までやりとげている	☆係や当番など、自分の役割を意識し、最後までやりとげるここと	◎友達や周りの人ことを大切に思い、優しくすること
2位	◎友達や周りの人ことを大切に思い、優しくしている	◎友達や周りの人ことを大切に思い、優しくすること	○授業でICTを効果的に活用すること
3位	◇先生は、自分の話をよくきいてくれる。	△学校のルールやマナーを守ること	進んであいさつをすること
4位	○授業でタブレットパソコンを使うと勉強がわかりやすい	○学習でICT(タブレットPC等)を効果的に活用すること	▽毎日学校に来ることを楽しいと思っていること
5位	□まわりの人ことも考えて、よいと思ったことは自分で決めて行動している	▽毎日学校に行くのが楽しいこと	◇児童や保護者からの訴えや相談内容を学年や学校体制で共有しながら、学級経営を進めること
6位	△学校のルールやマナーを守っている	◇子どもや保護者が、先生に話をよく聞いてもらえること	自分の思いや考えをしっかりと言えること

実現度上位の項目を並べてみました。

児童・保護者・教職員の三者で同じ項目が3つも上位に入る結果となりました。もちろん、実現度の割合には、違いがありますが、13ある項目のうち、上位にランクされているものが同じ傾向であることは、子どもの自己評価と大人が子どもの姿を通して見ている様子にズレが少ないということで、とても大切なことです。

学校で進めているいろいろな取組が、子どもたちの姿を通して、保護者の方々にも伝わり、学校の教育活動についてご理解をいただいているということだと考えます。今後も、子どもを中心に据え、家庭との連携をしっかりとり、子どもたちの健やかな成長を目指していきたいと思います。

第3回学校運営協議会役員会でも、アンケート調査結果をもとに、ご意見をいただきました。

- ◇「タブレット端末が整備されて、これからの中ICTの時代では必要不可欠なものである。ただ、子どもたちは操作すること自体に楽しさをおぼえているだけになっていないか、見ていく必要がある。頭で考えるときの道具としてどう使うのかが大切だ。」
- ◇「マスク生活のせいか、あいさつの声が聞こえない子が多い。声を出してはいけないと思っている子も多いのではないか。」
- ◇「学校があいさつすることを大切に考えているのだから、地域も保護者も一体となって、あいさつが出来るような取組を進めることはできないだろうか。」
- ◇「放課後まなび教室も学校との連携をしっかりとし、コロナウイルスの感染対策をしながらどこまでがけて、どこまではできないのかをきちんと共有し、安心安全の居場所づくりを続けていきたい。」

役員会の皆様には、いつも、子どもたちの健やかな成長を第一に考え、応援のメッセージをいただいている。学校、家庭、地域の連携で、ウィズコロナの新たな学校生活を創り上げていきたいと思いを新たにしました。ありがとうございます。

